

山本久雄名誉教授記念号の刊行にあたって

学長 和田 健 夫

山本久雄先生は、1976年3月に上智大学外国語学部をご卒業後、同大学大学院外国語学研究科に進まれ、博士前期課程（文学修士）、同後期課程で研究に従事された後、1986年10月に本学商学部講師として赴任、1987年10月に同助教授（1991年10月からは言語センター助教授）、1999年10月に同教授となられ、2017年3月に定年退職されました。定年後2年間の特任教授期間を含め、33年の長きにわたり、本学の教育研究の発展や大学運営に多大の貢献をなされました。

山本先生のご専門は言語学の分野、その中でも、言語能力の仕組みを探求する生成理論を基に、言語とは何かを解明することに取り組んでこられました（本号掲載の寄稿「小樽33年の思い」参照）。

大学院時代の研究成果は、「生成文法理論に基づく受動態の分析」文化女子大学研究紀要16、1985年、「統率と格理論」同16、1985年、Case Assignment in Double Object Construction, *Sophia Linguistica* 20/21、1986年として公表され、本学赴任後も、Case Assignment and Passive Construction 人文研究74輯、1987年、Clausal Arguments and Visibility Condition, *Sophia Linguistica* 23/24、1988年、On Passive Construction 人文研究79輯、1990年、Some Remarks on Phrase Structure 同83輯、1992年、On Feature Checking in the Minimalist Program 同88輯、1994年など多くの論文を執筆されました。

教育の面では、先生は、「英語」と英語関連の教職科目（「英語学演習」、「英語学概論」、「言語学演習」、「英語学」、「英語学特講」等）を担当されました。特筆すべき点は、1987年から2018年の間「研究指導（ゼミ）」を担当されたことです。「生成文法理論の研究」のテーマのもとに英語の好きな128名の学

生が学び育っていきました。

先生の飽くなき研究心は、退職後も、先生を新たな研究テーマに駆り立てていることと思います。一層のご活躍を期待するとともに、私どもへの変わらぬご指導をお願いする次第であります。